

日本人は人見知りで消極的って本当なのか？

3年5組35番 宮脇 采愛
3年5組 6番 川西 えりん

Keyword: 「消極的」「自己開示」「自尊心」「自己開示の抵抗感」「警戒心」「緊張」

1.はじめに

日本人は人見知りで消極的であると言われている。人見知りとは内気や恥ずかしがり屋などを一括りにしたもので、特徴は初対面の他人に対して積極的にコミュニケーションを図ることが苦手なことである。そしてその原因は自己開示の抵抗感によるものである。自己開示とは、自分がどんな人であるかなど自分に関する個人的な情報を相手に言葉を通して伝えることである。普段、積極的に話すことができる人も、初対面の人とのコミュニケーションとなると緊張や警戒心から消極的になり距離をとってしまう場合がある。それが社会にどのような影響をもたらしているか気になったためこのテーマを選んだ。

2.序論

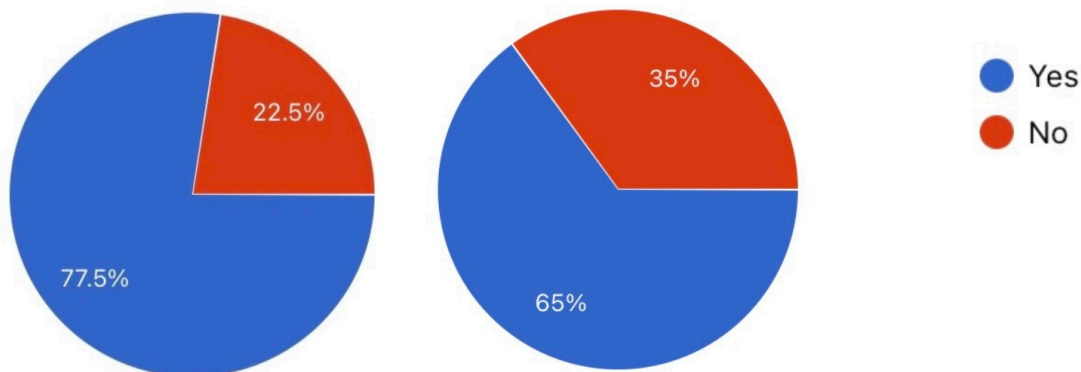
日本人の性格が社会においてどのように活かされるのだろうか。否定的内容の自己開示への抵抗感と自尊心の関連についての論文を参考に考えた。片山さんによると、否定的な内容の自己開示に抵抗を感じる程度、およびその原因に関して、研究を行った。自己開示の内容としては、深刻さの高いものと低いものを取り上げ、それぞれの自己開示への抵抗感の原因を、自尊心の高群と低群で比較した。まず、自己開示への抵抗感の程度と強い関連を示したのは、開示対象との親密性であった。(片山:1993年12月)

実際に、国際高校生を対象に私たちが言葉を通して何かを伝えるときにどのように考え、どのような行動をとっているのかについてのアンケートを基に日本人が消極的だと言われる原因について説明する。まず、あなたは自分のことを人見知りだと思うかという質問に対して「はい」と答えた人が約7割だった。そして、人に何かを相談することを躊躇ったことがあるかという質問に対しては、あると答えた人が約8割だった。この理由について自分のイメージが悪くなるかもしれないという不安や相手との関係性が壊れる不安などの理由があった。この結果を見ると、初対面の人だと余計に相手がどんな受け取り方をするのか不安になり、言葉で何かを伝えるのが苦手な傾向があるとわかる。やはり日本人は消極的であるといえるのか、私たちはこの結果について疑問を抱き考えていくことにした。

3.本論

まず、私たちが言葉を通して何かを伝えるときにどのように考え、どのような行動をとっているのかについての二つの質問の回答から考えていく。一つ目は、話し合いで相手と意見が違った時意見を言わなかったことがあるかという質問に対して、はいと答えた人が約八割だった。自分の意見が異なる場合、他人に合わせてしまう同調効果というものがある。その場の雰囲気や崩さないよう無意識に合わせてしまう現象のことだ。人との付き合いを気にする人には同調効果が生まれる。しかし人間関係を円滑に保ちたい人には良い効果である。デメリットとして相手の意見に合わせてしまうことは自分の意見を伝える機会を失うことになってしまう。二つ目は、日本は言葉より行動を重視していると思うかという質問に対して、はいと答えた人が六割以上だった。日本人は言語化するのが苦手な傾向があり、その代わりに行動にうつすことが多い。コミュニケーションが苦手な人は違うやり方で相手に伝える。控えめで謙虚な態度をとる人が多い日本は間接的に表現をする。これらは国によって異なることが言える。

①話し合い編 ②日本文化のイメージ編



そこで西欧との文化の違いに注目して考えた。西欧では様々な人種、文化、家庭環境の人が混ざり合っている国だから自分の常識が他人の非常識だったり、自分にとって驚くようなことが他人にとっては当たり前のことだったりということがよくある。そんな多種多様な背景を持った人々が集まる場所で察するのは無理がある。つまり、西欧人は自分の考えを言葉で伝えることを重視しているといえる。自ら相手に意思表示を行い、暗黙の了解が存在しないのが特徴的だ。反対に、日本文化の傾向は自分の意見をはっきりと言う積極性よりも相手の心情を察するというを大切にしている。このような控えめな性格は、日本人の美德であると考えられている。この日本人が美德として考えていることが影響して控えめな性格につながっている。このことを批判する人もいるが、果たしてそれは変えていかなければならないことなのか。アンケートの結果から、やはり日本人は消極的で知らない人だと余計に相手がどんな受け取り方をするのか不安になり、言葉で何かを伝えるのが苦手な傾向があることがわかる。これは、日本人の相手の心情を察しながら行動するという、人を傷つけないための優しさでもある。そして周囲の人々の心情を察することが苦手な人は、空気が読めない人と思われ人が離れていく。そのため、言葉の表現が苦手な日本人は初対面の人とのコミュニケーションが苦手な傾向があり、それを消極的だと捉えられていることが日本人を消極的に見せているのだといえる。つまり、日本人＝消極的ではないということだ。しかし、日本人のこの性格は意見をはっきりと相手に伝えるという行為を邪魔しているとも言える。

4. 結論

言葉の表現を重視する西欧人と行動の積極性を重視する日本人との文化の違いはそれぞれに良さがある。例えば言葉を重視し積極的に自分の意見を言う文化の良さは、物事を進めるときにいいアイデアをたくさん共有することができ、聞いた側も別の視点を得られて新たな発見ができる。そして、行き詰まっていたことが解決することもある。反対に日本人の行動を重視する文化では他人から何か言われる前に自分が今何をすべきなのかを判断し行動することを大切にしている。そのためニュースでもよく話題になる球場でのゴミ拾いなどの積極的な行動が挙げられる。しかし、それぞれの文化の違いで起こる問題もある。日本で昔からよく使われている「背中を見て学べ」という常識のようなことが西欧では通用しない。なぜなら、人種も宗教も、文化的なバックグラウンドもまったく違う人たちと一緒に働くことになるからである。「まずは説明」というのが基本で、外国人からすると「なぜ説明がないのか、教えてくれないと分からない」というように全く通用しない。この違いが外国人労働者を雇っている工場の問題となりニュースにもなっている。その工場では上司がまずは説明をするということを徹底し改善することで、全員がすべきことを把握し仕事に対してより向き合うことができたそうだ。この日本の企業の教育方針は外国人労働者にだけでなくこれからの社会のためにも変えていく必要があると考える。

5.おわりに

このように、文化の違いには良さだけでなく違いが起こす問題もたくさんある。そんなときお互いが譲り合い、違う文化を取り入れることで人種も宗教も関係なく多様性を尊重する社会をつくることができるのだと思う。私たちは「日本人は人見知りで消極的って本当なのか？」というテーマについて考え、このグローバル社会で異文化理解を深めることが人々が寄り添い合い生きていくことに繋がるのだと感じた。

6.参考文献.出典

否定的内容の自己開示への抵抗感と自尊心の関連 常磐大学 片山美由紀
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjpsy1926/67/5/67_5_351/_pdf (1993年12月)

何もしないほうが得な日本 社会に広がる「消極的利己主義」の構造 太田 肇
https://www.mof.go.jp/public_relations/finance/202305/202305i.pdf (2022年11月)

"Emotional Restraint and the Japanese Personality: A Cross-Cultural Perspective."
Takahashi, Y

https://www.researchgate.net/publication/342165288_Cross-cultural_comparison_of_mental_health_between_Japanese_and_Dutch_workers_Relationships_with_mental_health_shame_self-compassion_work_engagement_and_motivation . (2012)